

命とお金の大切さ

弘前市立第三天成小学校

桑 村 大 智

みなさん、もし五百円玉を拾つたら、どうしますか。五百円玉は、ぼくにとつては、少し大金です。だから、ちよ金をして、買いたいものを考えて後でたくさん買うと思います。

この本は、主人公のめいちゃんがしゃべる五百円玉を拾つたところからはじまります。

「オレさま、すきなものを買いたいよ。」

と、五百円玉に言われためいちゃんは、五百円玉の使い道をいろいろ考えます。おかしをたくさん買おうとしましたが、五百円では足りなかつたり、カネを買おうと思ってもケースやえさ代が足りなかつたり…。五百円のお花を買おうとしたら、消ひせい分が足りませんでした。それでも、五百円玉を大切に使おうとしているめいちゃんと、いろいろ文句のよう言いながらも、めいちゃんのことを心配しているような五百円玉がおもしろいなあと思いました。

ぼくは、この五百円玉は神様から心をもらつたと思います。

そして、めいちゃんのところにあらわれたのも、神様のしづぎのよつな気がします。

なぜなら、さいごにめいちゃんが五百円玉で手に入れたものは、思いもよらなかつたものだからです。それは何だと思いますか。

めいちゃんは、空き地でカラスにおそれそになつている子ねこを助けるために五百円玉を投げつけたのです。五百円玉は消えてしましましたが、めいちゃんは子ねこを手に入れたのです。お金では買えない命を手に入れたのです。ぼくは、勇氣があつてやさしいめいちゃんがいいなあとthoughtしました。そして、消えた五百円玉も気になりました。

この本を読んで、お金には、いろいろな使い道があることを知りました。そして、お金を使うときには、よく考えて、大切に使わなければいけないことに気づかされました。しゃべる五百円玉は、読者のぼくにもお金について考えるきっかけをたくさんあたえてくれました。だから、ぼくもこれから

は、よく考えてお金を使いたいです。そして、買ったものを大切にしていきます。お金で買えないものの大切さもわすれないとおもいます。

もしかしたら、みなさん近くにも、めいちゃんがなくした五百円玉がいて、話しかけてくるかもしませんよ。